



教育ゆりほんじょう

第 2 号
令和 5 年 6 月 1 2 日
由利本荘市教育委員会
学 校 教 育 課
教 育 支 援 セ ン タ ー

第 1 回由利本荘市コミュニティ・スクール 連絡協議会が開催

令和 5 年 5 月 1 9 日（金）午後 2 時半から西目公民館シーガルで、今年度第 1 回コミュニティ・スクール連絡協議会が開催されました。熟議を主とした開催は 3 年ぶりとなりました。



始めに、工藤副会長が「地域の人・もの・こと、自然・伝統・文化そういうものが、今を生きる子どもたちの大きな支えになっているのではないかとつくづく感じています。熟議を通してそれぞれの地区のよいところ、今までやられてきたことを今一度見直したり語り合ったりして、これからどのように高めていくかということについて、貴重な情報交換の場になるのではないかと期待しています。今日は思いの丈をいっぱい伝え合っていて、子どもたちがますます輝いていくためにはどうしたらよいか話し合っていたきたいと思います。」と挨拶されました。

続いて、秋山教育長が「今年の 5 月から感染対策が大きく変わりました。運動会や修学旅行など、計画通りに実施することができています。子どもたちの笑顔や活気も戻ってきているように感じます。今年は、各学校の学校報など、子どもたちの活躍の情報等をできるだけホームページで発信していくようお願いしています。保護者や地域の皆様への情報発信は、これまでも各学校で丁寧になされてきましたが、子どもたちの頑張りを広く発信することで、再度この地域のよさや力をみんなで確認することができるのではないかと考えます。このCSの活動を通じて、子どもたちが地域から支えられている自分、地域に主体的に関わる自分を確認し、そして、地域を越えてたくさんの人に地域で学び育つことのよさを表現するその機会として、このコミュニティスクールが大きな力を発揮することを期待しています。」と挨拶されました。



熟議と指導助言

テーマ「地域と共にある学校づくり・学校を核とした地域づくりを進めるために
どんなことができるのだろうか」



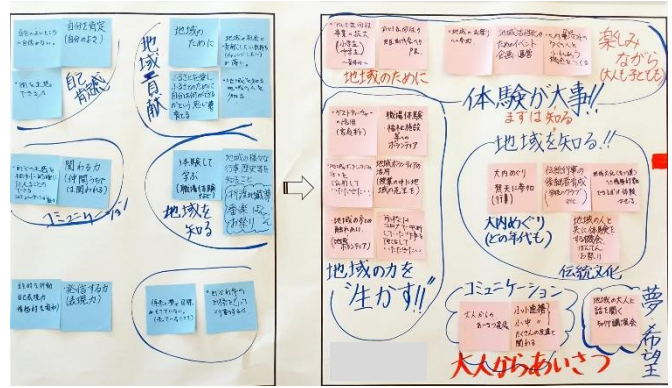
熟議の前半は、中学校区ごとに分かれ、学校・地域それぞれの実情や課題を踏まえた上で「地域の子どもたちに必要な力は何か」を話し合い、目標を共有しました。その後、「必要な力を育てるためのアクションプラン」について、今ある活動を大切にしながら、学校と地域が連携・協働して行う活動について話し合い、今年度の活動の見通しをもちました。「活動内容や参加の仕方を工夫し、地域の方と関わり合いながら地域を活性化していくという発想に変えていきたい。」「地域の力を借りるために、学校運営協議会だけでなく、町内の核となっ

ている方々にも声をかけるなど、サポーターを増やしていきたい。」等、学校と地域の双方向からの意見交流が活発に行われていました。

熟議の後半は、それぞれの地区で出されたアクションプランを紹介していただき、全体で共有しました。



各地区からのアクションプランの紹介



各地区でまとめた熟議シート

最後に、高野CSマイスターより次のような指導助言をいただきました。

地域と学校が連携・協働するといろんなメリットが見えてきます。アクションプランは、その地域ならではのものもたくさんありました。子どもの学びが広がったり、教師側も授業づくりの幅が広がったりするという取組も出ていたので、全部は難しいと思いますが、この中のどれかを形にできるよ



う頑張っていたきたいと思います。親子で同じ体験をする、おじいさんとおばあさんと同じ体験をする、地域のみんで同じ体験をするというのが、この由利本荘市の未来の担い手と作り手を育てるということになり、大事なことはないかと思います。そのために、学校・地域・町内・公民館・行政それぞれの役割がいろいろ見えてくると考えます。大事なダイヤモンドの一人一人の子どもたち、将来を担う素晴らしい人材を育てるために皆さんで頑張っていきましょう。

今回のCS連絡協議会の熟議では、地域の子どもたちを育てるためにできることを、様々な視点から意見交流し、会場全体がとても活気に溢れました。参加された皆様、ご協力ありがとうございました。学校と地域のさらなる連携やCSの取組の活性化のため、この活動や情報を教育支援センターだよりやホームページ等で発信していきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。



本荘ふれあい教室・開級式



生徒が在籍する学校の校長先生方や秋田県教育庁中央教育事務所由利出張所の指導主事、スクールソーシャルワーカーの方が見守る中、令和5年度の本荘ふれあい教室の開級式を5月15日(月)に実施しました。

子どもたちは、秋山教育長や田口指導員のお話に、真剣に耳を傾けていました。

子どもたち一人一人が目標をもって学習や様々な活動に取り組んでいけるよう、センター職員全員で支えていきたいと考えています。